

大学

アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2022.3.31 No.66

Japan Association of College and University  
Archives : Eastern Japan Division

## 目 次

・山本百合恵「高岡裕之先生のご講演を聞いて」	1
・松原太郎「全国研究会に参加して」	3
・藤田佳久「福澤諭吉記念慶應義塾史展示館見学会から地方、そして愛知大学も見る」	4
・鈴木直樹「第126回研究会に参加して」	7
・全国大学史資料協議会2021年度総会記録	9
・全国大学史資料協議会2021年度役員会議事録	9
・全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録	12
・全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録	14
・全国大学史資料協議会東日本部会会員名簿	19

2021年10月7日（木）全国大学史資料協議会2021年度全国研究会基調講演

## 高岡裕之先生のご講演を聞いて

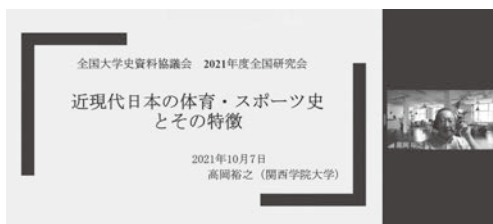
立教学院展示館 山本百合恵

2021年10月7日、関西学院大学を中心とした全国大学史資料協議会2021年度全国研究会が、コロナ禍によりオンラインにて開催された。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の記憶も新しいなか、日本近現代史を専門とする同大学文学部教授・高岡裕之先生をお招きした基調講演は「近現代日

本の体育・スポーツ史とその特徴」と題して行われ、今夏の感動冷めやらぬまま興味深く拝聴させていただいた。以下、講演の概要と感想を述べたいと思う。

- 1、オリンピックと日本
- 2、外来文化としてのスポーツ
- 3、スポーツ団体の成立
- 4、日本スポーツ界の構造的特徴

講演は資料をもとに上記の順に進められ、はじめにこれまでのオリンピックの成績が確認された。日本は先のオリンピックにおいて史上最多となる金メダル27個を含む計58個





か、コロナ禍も相まって、平和な日常の尊さを改めて認識させられた。最後になるが、この様な講演を拝聴する機会をいただき、関西

学院大学をはじめとする関係各位の方々にご心より御礼申し上げます。

2021年10月7日（木）全国大学史資料協議会2021年度全国研究会

## 全国研究会に参加して

日本大学企画広報部広報課 松原太郎

当初、2020年度に関西学院大学で開催予定であった全国研究会は、新型コロナウイルス蔓延の影響により2021年度に延期され、さらに対面での開催が困難という理由で、10月7日（木）にオンラインで開催された。大会のテーマは「大学スポーツ史とアーカイヴズ」で、日本体育大学図書館課の宮原柔太郎氏、中央大学広報室大学史資料課の中川壽之氏、中京大学スポーツ科学部来田亨子教授の3報告の後、総括討論が行われた。以下に各報告の概要と感想を記していきたい。

宮原氏は「『日体史料室』の紹介、史料収集活動、大学史・部史との関わり等」というタイトルで報告された。1991年に百年史が刊行され、編纂時の収集資料をもとに百年記念資料室を設置、その後、日体史料室と名称を変更して現在に至っている。収集資料はOPACを活用して整理しており、大学事務文

書、寄贈資料、部史などが中心である。学生の研修会や野外実習の記録も1960年代頃から保存されているということで、興味深い資料である。課題としては組織的位置づけが不明瞭で規程整備が十分でないことや専門員の配置などを挙げられていた。

中川氏は「神田発信！ 大学スポーツの軌跡—明治大学、専修大学、中央大学、日本大学4大学連携スポーツ展報告—」と題し、2020年1月～4月に開催された4大学の共催展について報告された。新型コロナウイルス蔓延の影響を受けて、同時に企画したシンポジウムは中止となり、展示期間中も休館措置などが取られたために来場者の声を十分に聞くことが出来なかった。成果としては、1大学の展示よりもスポーツの時代的特徴が表れていたこと、各大学の所蔵資料の共通性と個性が明確となったことなどを挙げて

### 本日も話す内容

日本体育大学と日体史料室の紹介

収集方針とコレクション

今後の課題



2021年10月7日（木）開催  
全国大学史資料協議会2021年度全国研究会

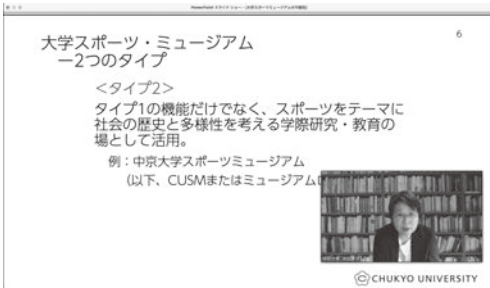


第2報告

「神田発信！ 大学スポーツの軌跡」

—専修大学、明治大学、

中央大学、日本大学4大学連携スポーツ展報告—



いた。また、各大学のスポーツを網羅的に展示したために展示のストーリー性が希薄となったこと、映像や音声資料を十分に活用できなかったことを課題とし、様々な枠組みでの大学横断展示の必要性を指摘して報告を終えた。

来田氏は、「大学スポーツミュージアムの可能性—中京大学における史資料の収集と利活用を事例に一」と題し、2019年開館の中京大学スポーツミュージアムの概要について説明された。同館は大学関係者のスポーツに関する顕彰にとどまらず、スポーツをテーマに社会の歴史と多様性を考える学際研究・教育の場として活用しているという。また、ミュージアムとしてのコンセプトを明確化し、6つのテーマを設けてそれに関する資料の収集につとめている。資料の収集につ

ては、将来的な寄贈を視野に入れた「デジタル寄託」という制度を用いているとのこと。

「スポーツミュージアム」として明確なコンセプトを持った収集、展示活動など、学ぶべきことが多い内容であった。

総括討論では、報告者への個別質問が中心であったが、スポーツ関連資料の受け入れ方法、ミュージアム来館者の問題意識や関心について、ミュージアムの設置場所などについて意見が交わされた。

大学スポーツの関連資料は、組織文書とは異なり大学アーカイヴズが収集しにくい対象資料といえる。当課は3報告のように進んだ取り組みを行っているわけではない。ただ、大学スポーツ、とくに部活動資料の収集については、従来通りの手法ではあるが、「部史」を編纂する時期に大学アーカイヴズから積極的な支援（情報提供）を行い、資料の整理・保存のためには大学アーカイヴズに託すという選択肢があることを学内外に周知し続けることが重要であると感じた。東京オリンピック開催に合わせて実施された今回のテーマは、大学におけるスポーツ関連資料の収集について、改めて検討する良い機会となった。

2021年12月16日（木）研究会

## 福澤諭吉記念慶應義塾史展示館見学会から地方、そして愛知大学も見る

愛知大学東亜同文書院大学記念センター 前センター長  
愛知大学名誉教授 藤田佳久

1. 2021年の年末、12月16日に、大学史資料協議会の東日本部会主催研究会の一環とし

て同年5月にオープンした福澤諭吉中心の「慶應義塾史展示館」での見学会に参加させ



ていただいた。実はこのオープンを知って、これより前の秋に法政大学の最新技術を駆使した大学史展示とともにこの慶應展示館へも出かけており、私としては2度目の見学であった。愛知大学は上海にあった東亜同文書院大学の戦後の引揚げ大学として1946年に創設されており、1993年に東亜同文書院大学記念センターを設置し、同98年には同センター記念展示室を主とした大学記念館内にオープンさせた。この大学史協議会でも全国と東日本の2回の大会、研究会を開催させていただいたことがある。展示室設置のさいには早稲田大隈記念館や國學院大學の展示を見せていただいたが、各大学には独自の歴史があり、結局は独自に工夫することになり、展示には試行錯誤し、今もそのさなかにある。それだけにすでに開設されていた福澤研究センターにこのたび新たな展示館ができたということを知り、大変関心を持った。また、当方の記念センターがその後文部省の「オープン・リサーチセンター」のプロジェクトに選択され、次期のプロジェクトにも選択されて延べ10年間の助成を受けたときに、福澤研究センターとの連携をお願いしたことがあった。ただ当時、福澤研究センターは移転の最

中であり、こちらが遠慮がちになっていたのが残念であった。そんな中、西澤教授と坂井達朗名誉教授には大変お世話になった。特に坂井名誉教授は、以前愛知大学の社会学の教授をされており、慶應大学へ移籍後、福澤研究センター長もされていて、1946年に愛知大学での初代学長に就任された塾長出身の林毅陸先生についてのご講演を愛知大学でお願いしたりした。そこで今回は、私個人だけではもったいないので、愛知大学の当記念センターの研究員の石田卓生、事務員の伊藤綾子の二人も同行させていただいた。

2. 見学に先立って行われた都倉武之准教授の講演は展示室の開設までに至るご苦労話と、展示内容への自画自賛の内容を極力避けたとする研究者としての志の高さには共感できた。三田キャンパスは狭く学生増の中で教室使用優先の当局の方針の中で、展示室は繰り返し後回しにされ、やっと旧図書館の耐震工事に伴う2階の旧会議室が手に入ったという経過は、天下の慶應大学でも校史展示が容易ではなかったということで、多くの大学にも共感されたことであろう。

しかし、その分、福澤研究センターのこれまで長く蓄積されてきた研究成果が公表展示されたものと受け止めた。展示では、まずビデオで大きな流れを見せた後、福澤諭吉の歩み、文明創造と学問の力、独立自尊の精神と私立学校の矜持と苦悩、自塾と社会、などの福澤諭吉中心のテーマが近代日本の展開とつなげながら丁寧に展開され、特にその中で福澤の名言など文字の力で表現したところに独自の主張と迫力を感じ、そこにこれまでの

研究蓄積も伝わってきた。

3. 展示を見ながら、福澤が全国で果たした教育普及と質の向上、門下生たちの地域振興の果たした役割も垣間見えた。愛知大学の創立拠点である東三河でもその一端が示され、福澤の塾生として薫陶を受けた地元出身の阿部泰藏（のち日本初の生命保険会社、明治生命設立者）など地域の経済界をバックにしたリーダーたちは高等小学校もない時代に早くも三河初の「宝飯（旧郡名）中学校」を1881年に国府村に設立し、初年には約100名の入学を受け入れた。すべて英書を教科書にして義塾出の教員が教師になり、福澤もこの中学校を訪れている。しかし、森有礼文相による1県1中学校令が出され、6年後閉校の憂き目にあった。しかし、リーダーたちはそれにめげず、次は近代交通に着手し、1897年の豊川鉄道（のちに飯田線として国鉄に買収）と、その延伸を実現。しかも当時の阪急の小林一三に負けないデパートや劇場も含む3階建ての私鉄では先駆的な豊川ターミナル駅建設、沿線にも一大公園を開発している。塾生たちの先進性の開花であった。

4. 最後に1946年に創立した愛知大学の初代学長に塾長経験者の林毅陸が就任した件である。1901年に上海に開学した東亜同文書院（のち大学）は終戦の年1945年に上海本校は閉学した（ただし、富山の呉羽分校は年末まで存続）。最後の院長であり学長であった本間喜一は戦時中に学徒出陣で意に反して学生を戦場へ送ったことを反省し、帰国後設立した愛知大学の初代学長には就任しなかった。その際、呉羽分校の教員たちも含め、戦

後の新たな大学設立の趣旨に「国際平和」を中心に掲げ、それを支えるべく「国際人の養成」と「地域文化への貢献」を掲げた。とりわけ「国際平和」の基調については、それにふさわしい学長が必要だったと思われる。本間学長はその適任者に国際外交史の第一人者で、慶應塾長の経験もある林毅陸を選んだと思われる。紆余曲折はあったが、林は本間の熱意に最終的に合意し、初代学長を引き受けた。その研究上から見た適任役もあって、戦後外地から引き揚げてくる書院生他の学生たちの受け皿の大学として愛知大学は、1946年の8月には文部省で早々と内定され、同年の11月15日に天皇の裁可印を得て旧制「愛知大学」として公式に認可された。設立趣意書は大学の神髄であることを考えると、林の参加で、愛知大学の設立に福澤塾生の志も加わっていたといえそうである。なお、林学長は愛知大学の設立にかかわる中で、東三河、豊橋地方のリーダーたちが福澤諭吉に強く関係があることも知り、心通じたこともあった。

5. 以上、慶應義塾史展示館を2度にわたって見学したことから得た、各地域へも及んだ福澤近代史に刺激を受け、当地域からの思い



を寄せさせていただいた。同展示館が今後も刺激の発信地となりますように。改めて当日

の都倉准教授はじめ、見学などのお世話を頂いた方々に感謝いたします。

2022年1月18日（火）研究会

## 第126回研究会に参加して

中央大学広報室大学史資料課 鈴木直樹

2022年1月18日（火）、全国大学史資料協議会東日本部会第126回研究会が國學院大學渋谷キャンパスの國學院大學博物館で開催された。今回の研究会では、佐々木理良氏（同館学芸員）による「コロナ禍における取り組み」と題した講演、博物館見学、講演などについての質疑応答が行われた。また、今回は会場参加とオンライン参加のハイブリッド形式で実施された。

私は、國學院大學博物館に行ったことがなかったもので、思い切って会場参加を申し込み、博物館を訪れた。エントランスを抜け、展示室入口を入ると、その規模の大きさに驚かされた。展示室の大きさは1600㎡を超えるという。私は展示物に魅了されつつも、まずは着席し、講演に耳を傾けた。

佐々木氏の講演の前半は、國學院大學博物館の歴史や概要に関するものであった。國學

院大學博物館の展示室は「考古学」「神道」「校史」「企画展」の四つに分かれており、大学の特色を反映したものとなっている。これは、博物館が考古学については考古学標本室（昭和3年（1928）開設）、神道については神道学資料室（昭和38年（1963）開設）の資料を受け継いで設立されたことによるそうである。この点は、各大学博物館の成り立ちや展示内容を類型化して考える上で興味深い。

講演の後半は、コロナ禍における國學院大學博物館の取り組みについての紹介であった。今回提示された活動は大きく二つに分けられる。

一つ目は、早期再開に向けた取り組みである。國學院大學博物館は、2020年4月7日に東京都などを対象とした緊急事態宣言の発出を受けて、翌日から休館となった。その後、早急に再開に向けた対策案をまとめ、感染対策を実施したため、早くも7月2日に再開となった（開館日数・時間の縮小などの措置は現在まで継続）。消毒用エタノールの入手、観覧順路の整備、特別展示の延期など、苦労がしのばれる報告であった。

二つ目は、YouTubeによる動画配信という新たな活動を開始したことである。現





在、37本の動画がアップされている。驚くべきことに、この動画は博物館学芸員らによって作成されているのである。最初は手探りで撮影・編集を行っていたそうだが、最近では2週間程度で撮影から投稿までをしているようである。動画編集で気を付けたことは、①1本当たりの再生時間を5分程度にまとめる、②サムネイルに統一感を出す、③新たな動画の公開を定期的実施する、ことだそう。

そして、最後の報告スライドにあった、コロナ禍の取り組みは「「コロナ禍だから」「休館中をしのぐため」ではなく、変わらず「動き続けること」+「新たな活動」という思考で実現」という箇所には大変共感させられた。特に、動画配信により、博物館の知名度は向上し、外国にも研究成果を発信できるようになった。来館者の増加や海外への発信などは、コロナ禍以前からの博物館の課題であった。コロナ禍をきっかけに、新たな活動を通じてこれらの課題に挑戦したことにより、徐々に成果が出ているのである。

展示見学は特別展コーナーから始まった。特別展コーナーでは「アイヌプリー-北方に息づく先住民族の文化-」と題する展示が行わ

れていた。近年、漫画やアニメの影響でアイヌ文化に対する関心も高まっており、時宜に合った展示だと思った。

その後、「校史」「考古学」「神道」の順番で展示を見学した。「校史」の展示では、國學院大学の設立母体である皇典講究所の初代総裁・有栖川宮徳仁親王所用の品々が特に目を引いた。華麗な装飾を施された食器などは、明治期の皇族たちの生活を彷彿とさせる。また、「神道」の展示も充実している。神道に関する儀式・祭礼などは、文章などを読んでもイメージすることが難しい。実際に儀式や祭礼の様子を示した絵図や儀式・祭礼で使用する道具などを見ることで、理解を深めることができた。

最後の質疑では、特にYouTube配信に関する質問が多く寄せられた。動画編集の流れや著作権などの権利関係処理の問題など、質疑は多岐にわたった。

私は、大学史の業務に関わって日が浅く、まだまだ分からない事も多くある。しかし、今回初めて対面での研究会に参加し、新しく知り合った人も多く、大変有意義であった。様々な情報交換の場としても、この研究会が機能しているのだろうと感じることができた。経験豊かな多くの人々と会い、こうした研究会を通じて大学史に関する知識を吸収していきたいと思った。そのためにも、新型コロナウイルス感染症の早期の収束・終息を祈るばかりである。



## 全国大学史資料協議会 2021年度総会記録

2021年10月に関西学院大学で開催を予定していた全国大学史資料協議会総会及び全国研究会は、新型コロナウイルス蔓延の影響により、総会は書面開催、全国研究会はオンライン開催となった。なお、総会の議題は報告事項のみで11月1日に会員各位へメール配信した。総会資料は以下の通りである。

- (1) 全国大学史資料協議会2021年度総会報告書
- (2) 資料1 全国大学史資料協議会東日本部会2021年度事業計画書
- (3) 資料2 全国大学史資料協議会西日本部会2021年度事業計画書
- (4) 資料3 国立国会図書館インターネット資料収集保存事業からの依頼書及び回答書
- (5) 資料4 全国大学史資料協議会2021年度全国役員会議事録

## 全国大学史資料協議会 2021年度役員会議事録

(第200回全国大学史資料協議会東日本部会幹事会)

日時 2021年10月7日(木)  
10時00分～10時30分  
※Zoomによるオンライン開催

出席 (東日本部会)  
神奈川大学(会計委員〈ウェブ担当〉)、國學院大學(監査委員)、淑徳大学(運営委員)、専修大学(会長)、大東文化大学(運営委員

〈叢書・会報担当〉)、帝京大学(監査委員)、東海大学(会計委員)、日本大学(事務局)、武蔵野美術大学(副会長)、明治大学(事務局)、立教学院(副会長)、古俣達郎(運営委員)

(西日本部会)

大阪女学院(副庶務校)、大阪大学(幹事)、関西大学(広報担当校)、関西学院(部会長校)、同志社大学(庶務校)、広島大学(会計校)、桃山学院(幹事)、古野貢(幹事)

司会 太田博之氏(同志社大学)  
議事

### 1. 2022年度全国大学史資料協議会総会・全国研究会運営の件

東日本部会事務局・日本大学より、2022年度総会・全国研究会の運営について、次のとおり報告があった。

通常であれば、次年度の総会・全国研究会は全国役員会で報告できることがベストであるが、コロナ禍の影響により、まだ来年度のキャンパスの使用状況の見通しが立っていない。そのため、現時点では、次年度の総会・全国研究会は、東京都または神奈川県で10月初旬に開催予定ということまでの報告になる。また、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていけば対面で開催したいが、ハイブリッド開催あるいはオンライン開催になる可能性もあることをご理解いただきたい。

報告のあった総会・全国研究会運営について承認された。

### 2. 全国大学史資料協議会 2021年度総会開



会」の項目はもうけず、その内容は「総会および全国研究会の概要」で報告する予定である。

・全国研究会の総括討論の文字おこしについては、外部に委託する方針で進めることとする。

・参加記については、東日本部会からは東京農業大学・畑川氏、西日本部会からは同志社大学・太田氏にご執筆いただくことになっている。

#### 4) 大学史資料所蔵機関紹介ページの修正について

・東日本部会事務局・日本大学より、東日本部会21会員、西日本部会13会員の修正が5月末日に完了し、経費については東西両部会で作業費用を按分した旨が報告された。

・大阪大学・菅氏より、今後の大学史資料所蔵機関紹介ページ更新の頻度について質問があり、1～2年に1回の頻度で更新予定であることが、東日本部会事務局・日本大学より説明された。なお、住所や連絡先などの変更で緊急を要する場合は、東日本部会事務局・日本大学が個別で対応する旨が確認された。

#### 5) 国立国会図書館インターネット資料収集保存事業における全国大学史資料協議会インターネット資料の収集・保存・提供について

西日本部会庶務校・同志社大学

より、国立国会図書館からのインターネット資料収集等についての申し入れを許諾したことが報告された。

#### (2) 総会の開催形式と通知方法

2021年度総会の開催形式は、新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度と同様にe-mail・ホームページ等を用いた書面審議とする旨、報告された。議題は、本日の全国役員会内容を全国役員会議事録により報告し、両部会の総会で承認された2021年度事業計画書を総会資料として添付する。

2021年度総会の通知方法についても前年度と同様、東日本、西日本の両部会の別に、会員へe-mail等で総会資料を送付することが確認された。なお、総会議案は報告事項のみであり、採否の議決をとる必要がないため、会員のe-mail受信により総会は成立したものと

#### 3. その他

東日本部会会計委員・東海大学より、全国研究会を運営するにあたり発生した経費（交通費・資料作成費・謝金等）は両部会で按分する旨が説明された。そのため、経費の詳細については、両部会での情報の共有が必要となる。また、経費が発生しなかった場合でも、次年度の決算の参考とするため、その旨を連絡してほしいとのことであった。経費については、研究会の講師と報告者1名の謝礼



明があり、了承された。

- 12月研究会担当（専修大学）より、本日の研究会スケジュールが説明された。
  - 1月研究会担当（國學院大學）より、1月18日（火）午後、國學院大學でハイブリッド形式による開催が提案され、了承された。幹事会を同日開催するかどうかは、後日、各幹事校にアンケートをとった上で決定することになった。
  - 3月研究会担当（大東文化大学）より、会場校について意見が求められ、明治大学博物館での企画展見学が明治大学より提案され、了承された。
- (2) 2022年度全国研究会について
- 神奈川大学より、2022年10月5日（水）～7日（金）、神奈川大学みなとみらいキャンパスで開催を検討しており、テーマ及び見学先は未定で、会場の確保は年度末に確定するとの報告があり、了承された。
- (3) 2022年度東日本部会総会について
- 事務局（日本大学）より、会場について意見が求められ、専修大学神田キャンパスで開催を検討する旨の提案があり、了承された。
- (4) その他
- 会報担当（大東文化大学）より、66号については、2月入稿、3月発行で進めている旨が報告された。
  - 事務局（日本大学）より2022年度役員改選について説明があり、次回幹事会までに各自検討することとなった。

第202回全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録

日 時 2022年1月20日（木）

13時30分～14時30分

場 所 Zoomによるオンライン開催

出 席 神奈川大学 國學院大學 淑徳大学  
専修大学 大東文化大学 帝京大学  
東海大学 日本大学 武蔵野美術大学  
明治大学 立教学院 古俣達郎  
檜皮瑞樹

議 題

- (1) 2021年度東日本部会研究会について
- 3月研究会担当（大東文化大学）より、3月研究会は明治大学博物館で開催することになっていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により会場の使用が難しくなったことから、3月10日（木）に帝京大学博物館で開催することに変更した旨の説明があった。
  - 3月研究会会場の変更に伴い、研究会担当が大東文化大学から帝京大学に変更することが提案され、了承された。
- (2) 2022年度全国研究会について
- 2022年度研究会のテーマについて意見が求められ、各校で持ち帰り、次回幹事会で再度検討することとなった。
- (3) 2022年度東日本部会総会について
- 専修大学より、2022年度東日本部会総会は6月2日（木）に専修大学神田キャンパスで開催すること、会場は確保したことが説明され、了承された。
- (4) 2022年度役員改選について
- 2022年度役員について各校の意向を確認した結果、持ち帰って検討し、

次回幹事会で再度検討することとなった。

(5) その他

- ・会報担当（大東文化大学）より、66号については、予定通り2月入稿、3月発行で進めている旨が報告された。
- ・事務局とホームページ担当校（神奈川大学）より、協議会ホームページの不具合の経過と対応について説明があった。現在は復旧しているが、今後使用していくうえで問題がまだ残っていることから、必要な点については相談の上で改修等を行う旨が説明され、了承された。
- ・事務局より、（株）国際マイクロ写真工業社の喜好可南子氏から個人会員として入会の申込みがあったことが説明され、次年度からの入会が了承された。

全国大学史資料協議会  
東日本部会研究会記録

全国大学史資料協議会2021年度研究会

（第124回全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録）

テーマ 「大学スポーツ史とアーカイブズ」

日時 2021年10月7日（木）

13時30分～17時00分

形式 Zoomによるオンライン開催

出席 〈東日本部会〉

愛知大学 お茶の水大学 学習院 神奈川大学 関東学院 慶應義塾 國學院大學 淑徳大学 女子美術大学 聖心女子大学 専修大学 大東文化

大学 玉川大学 中央大学 帝京大学 東海大学 東京農業大学 東邦大学 東北学院 東洋英和女学院 東洋大学 日本獣医生命科学大学 日本大学 法政大学 北海道大学 武蔵野美術大学 明治大学 明星学苑 立教学院 早稲田大学 阿部伊作 亀谷篤志 古俣達郎 清水善仁 林慎一郎 古郡信幸

東日本部会=36会員49名

（内訳：30大学43名、個人6名）

〈西日本部会〉

大阪女学院 大阪大学 関西大学 関西学院 近畿大学 京都産業大学 神戸女学院 中京大学 同志社大学 梅花学園 広島大学 福岡大学 桃山学院 立命館 九州大学 古野貢 谷口徹 小宮山道夫

西日本部会=18会員40名

（内訳：15大学37名、個人3名）

総計=54会員89名

（内訳：45大学80名、個人9名）

全国研究会テーマ

「大学スポーツ史とアーカイブズ」

司 会 西日本部会庶務校 太田博之氏  
（同志社大学同志社史資料センター）

会場校挨拶 田中 敦氏  
（関西学院学院史編纂室長）

講 演 高岡裕之氏  
（関西学院大学文学部教授）

演 題 「近現代日本の体育・スポーツ史とその特徴」

〔概要〕高岡氏の講演は、オリンピックでの金メダルの獲得数から日本が戦前か

ら世界でも有数のスポーツ国であったとし、もともと「スポーツ」という概念のなかった日本に外来文化としてのスポーツがどのように定着したのか、また日本におけるスポーツの構造的特徴について論じたものであった。

まずスポーツの日本への到来は居留地に住む外国人や外国人教師、外国軍人によるところが大きく、1875年に来日した英語教師のF.W.ストレンジは学生スポーツの組織化を図り、「日本における近代スポーツの父」と呼ばれた。また、軟式テニスなど日本式スポーツも誕生した。20世紀に入るとオリンピックへの参加の必要からスポーツ団体が組織され、行政の主導で全国的な組織へと発展していった。そのような日本のスポーツの特徴として、(1)スポーツエリートとしての学生スポーツ、(2)学生アスリートの受け皿としての企業、(3)ノンエリートのスポーツの存在を指摘された。(桜井昭男)

報告1 宮原柔太郎氏

(日本体育大学図書館課)

「『日体史料室』の紹介、史料収集活動、大学史・部史との関わり等」

〔概要〕宮原氏の発表は、「日本体育大学と日体史料室の紹介」「収集方針とコレクション」「今後の課題」で構成されていた。まず、学校史とともに日体史料室設置の経緯について、時系列を追いながら画像や史資料を紹介しつつ説明がなされた。同大学の

百年史編纂作業で収集した資料を大学に移管後、日体史料室において新たな収集・整理・保存が行われ、規程化やシステム整備などの現状について説明があった。課題としては、「規程類の整備」「人員・施設」「収集資料の拡大」「学内機関との連携」の4つが示されたが、これらは史料室の設置当初からの学内所管の変遷や、組織的な位置づけなどにも起因しているとのことである。課題への改善案を明示しつつ、保存スペースの制約や資料の収集・公開の対応など、今後の取り組むべき方針を示された。発表は、同大学ならではの所蔵コレクションやエピソードを織り交ぜながら、史料室の活動と今後の展望についての報告であった。

(渡邊卓)

報告2 中川壽之氏

(中央大学広報室大学史資料課)

「神田発信！大学スポーツの軌跡 ー明治大学、専修大学、中央大学、日本大学4大学連携スポーツ展報告ー」

〔概要〕中川氏からは、大学スポーツをテーマにした、私立法律学校として神田に関係深い4大学（専修大学・明治大学・中央大学・日本大学、協力法政大学）共催による展示会の報告がなされた。同展示の開催となった2020年は東京オリンピック・パラリンピックイヤーであり、またそれら神田の大学からはじめてオリンピック出場選手が出て100年目にもあたることから、展示はそうした大学のス





題への問いかけに関心を持つ人は重ならない部分もあると思うが、そこをつなぐ工夫で意識していることはあるか？ など多く寄せられた。

最後に司会から報告者に、大学スポーツ史とアーカイヴズとは？ という質問があり、各部署が持っている史資料を一箇所ですべてまとめるためにデジタルを参考にしたい、各大学がデジタルを活用し連携できればいい、そしてスポーツパーソンの育成が大事な時代なので一緒に取り組んでいければ素晴らしいということが語られ、討論を終えた。

(阿久津朋子)

閉会挨拶 副会長校 高橋和三氏  
(関西学院大学博物館事務長)

第125回全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録

日時 2021年12月16日(木)  
13時30分～16時30分

会場 慶應義塾三田キャンパス  
東館ホール 〒108-8345  
東京都港区三田2-15-45  
※対面とオンラインのハイブリッド開催

出席 【対面】  
愛知大学 青山学院 神奈川大学  
慶應義塾 國學院大學 専修大学  
中央大学 帝京大学 東海大学 東洋英和女学院 東洋大学 日本大学  
法政大学 明治大学 明星学苑 早稲田大学 北村和夫 古俣達郎 中村青志 林慎一郎 古郡信幸

(西日本部会) 甲南大学  
(計31名)

【オンライン】

愛知大学 青山学院 お茶の水女子大学 淑徳大学 上智大学 女子美術大学 聖心女子大学 大東文化大学 玉川大学 中央大学 東京農業大学 東北学院 獨協学園 名古屋市立大学 南山学園 日本獣医生命科学大学 日本大学 武蔵野美術大学 立教学院 檜皮瑞樹 (西日本部会) 大阪市立大学 広島大学 京都産業大学 近畿大学 梅花学園  
(計34名) 総計65名

司会 瀬戸口龍一氏  
(専修大学大学史資料室)

講演 都倉武之氏  
(慶應義塾福澤研究センター准教授)

「慶應義塾史展示室の設立経緯および現状と課題」  
見学会  
慶應義塾史展示室常設展示室・企画展示室・三田キャンパス内の歴史的建造物など  
質疑討論

見学会終了後、会場参加者・オンライン参加者により実施

〔概要〕第125回研究会では、2021年7月に開館となった福澤諭吉記念慶應義塾史展示館(以下、塾史展示館と表記する)の見学会並びに同館の設立経緯・展示内容に関する講演が、対面とZoomによるハイブリッド形式にて開催された。

講演では、塾史展示館の展示を手掛けた都倉武之氏により、「福澤諭吉記念慶應義塾史展示館 設立経緯およ

び現状と課題」と題した報告が行われ、塾史展示館の施設概要、福澤時代から2009年以降の清家篤・長谷山彰両塾長時代に至る同館の設立経緯と各種課題が解説された。同館の展示に関しては、「塾史＝近代日本の格闘そのもの」であるとのコンセプトのもと、福澤および慶應義塾の歴史が全4章－「颯々」の章、「智勇」の章、「独立自尊」の章、「人間交際」の章－構成で展示され、「実物」と「ことば」を重要視し、学外にも通じる開かれた言葉で各種コンテンツが制作されたことが報告された。また、展示の手法として、奇をてらわない資料展示を主としながらも拡張性のあるデジタルコンテンツも活用していることが紹介された。見学会では2班に分かれて、塾史展示館（常設展示室・企画展示室）、三田演説館、北館、各種胸像・記念碑など慶應義塾三田キャンパス内の歴史的建造物等を見学し、講演会場に戻った後、質疑応答を経て、閉会となった。（古俣達郎）

第126回全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録

日時 2022年1月18日（火）  
13時30分～15時30分

会場 國學院大學渋谷キャンパス  
國學院大學博物館 〒150-8440  
東京都渋谷区東4-10-28  
※対面とオンラインのハイブリッド開催

出席 【対面】

神奈川大学 國學院大學 淑徳大学  
専修大学 帝京大学 日本大学 多摩美術大学 中央大学 東洋大学  
明治大学 立教学院 北村和夫 齊藤浩次 林慎一郎 檜皮瑞樹 古郡信幸

（計18名）

【オンライン】

愛知大学 神奈川大学 関東学院  
淑徳大学 女子美術大学 大東文化  
大学 玉川大学 中央大学 東北学院  
東洋大学 獨協学園 南山大学  
日本大学 法政大学 武蔵野美術大学  
明治学院 立教学院 古俣達郎  
（西日本部会）大阪大学 近畿大学  
熊本大学

（計32名） 総計50名

司会 渡邊卓氏（國學院大學校史・学術資産研究センター）

講演 佐々木理良氏

（國學院大學博物館学芸員）

「コロナ禍における國學院大學博物館の取り組み」  
見学会 國學院大學博物館

質疑討論

見学会終了後、会場参加者・オンライン参加者により実施

〔概要〕本研究会では、まず会長校である専修大学瀬戸口氏より挨拶と趣旨説明がなされた後、國學院大學博物館学芸員の佐々木理良氏より「コロナ禍における國學院大學博物館の取り組み」というテーマで報告を頂いた。佐々木氏の報告は、最初に國學院大學博物館の設立経緯や入館者数の推

移・属性などコロナ以前の状況についての説明があり、続いて2020年3月以降の開館状況や感染対策が紹介された。また、コロナ下におけるSNSでの「おうちミュージアム」やYouTubeによるオンラインミュージアム（展示解説やミュージアムトーク）、古墳発掘調査のライブ配信などオンラインを活用した積極的な情報発信の取り組み、「リアルとオンラインのハイブリッド」による発信の意義について報告がなされた。質疑では、SNSを活用した発信をめぐる諸問題（著作権や所蔵権の処理）や、博物館展示とオンライン発信との連関性などが話題となった。

（檜皮瑞樹）

### 全国大学史資料協議会東日本部会 会員名簿(2022年1月31日現在)

- |   |   |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1 愛知医科大学 アーカイブズ・医学情報センター（図書館）</li> <li>2 愛知大学 東亜同文書院大学記念センター（豊橋研究支援課）</li> <li>3 青山学院 資料センター</li> <li>4 跡見学園女子大学 IR・大学資料室</li> <li>5 お茶の水女子大学 歴史資料館</li> <li>6 学習院 学習院アーカイブズ</li> <li>7 神奈川大学 大学資料編纂室</li> <li>8 関東学院 学院史資料室</li> <li>9 国立音楽大学 校史資料室</li> <li>10 慶應義塾 福澤研究センター</li> <li>11 恵泉女学園 史料室</li> <li>12 皇學館大学 研究開発推進センター</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>13 國學院大學 校史・学術資産研究センター</li> <li>14 国際基督教大学 歴史資料室</li> <li>15 国士舘 国士舘史資料室</li> <li>16 国立女性教育会館 情報課</li> <li>17 駒澤大学 禅文化歴史博物館大学史資料室</li> <li>18 芝浦工業大学 経営企画部企画広報課・図書館</li> <li>19 自由学園 自由学園資料室</li> <li>20 淑徳大学 淑徳大学アーカイブズ</li> <li>21 上智大学 ソフィア・アーカイブズ</li> <li>22 女子美術大学 歴史資料室</li> <li>23 成城学園 教育研究所（成城学園百年史編纂室）</li> <li>24 聖心女子大学 管理部（大学アーカイブズ準備室）</li> <li>25 聖路加国際大学 大学史編纂・資料室</li> <li>26 専修大学 大学史資料室</li> <li>27 創価大学 池田大作記念創価教育研究所</li> <li>28 大東文化大学 大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）</li> <li>29 拓殖大学 創立百年史編纂室</li> <li>30 玉川大学 教育博物館</li> <li>31 多摩美術大学 アートアーカイヴセンター（AAC）</li> <li>32 中央大学 広報室 大学史資料課</li> <li>33 津田塾大学 津田梅子資料室</li> <li>34 帝京大学 帝京大学総合博物館</li> <li>35 東海大学 学園史資料センター</li> <li>36 東京経済大学 図書館・史料室</li> <li>37 東京女子医科大学 史料室・吉岡彌生記念室</li> <li>38 東京女子大学 大学運営部総務課 大学資料室</li> </ol> |
|---|---|

- 39 東京電機大学 総務部（企画広報担当）
- 40 東京農業大学 図書館事務課
- 41 東邦大学 額田記念東邦大学資料室（法人本部経営企画部）
- 42 東北学院 東北学院史資料センター
- 43 東北大学 史料館
- 44 東北文化学園大学 図書館情報事務室（学園史編纂室）
- 45 東洋英和女学院 史料室
- 46 東洋学園大学 東洋学園史料室
- 47 東洋大学 井上円了哲学センター・井上円了記念博物館
- 48 獨協学園 獨協学園史資料センター
- 49 富山大学 アーカイヴズ・総務部アーカイブ事務室
- 50 名古屋市立大学 大学史資料館（事務局 大学管理部 学術情報室）
- 51 南山学園 南山アーカイヴズ
- 52 日本獣医生命科学大学 附属ワイルドライフ・ミュージアム
- 53 日本女子大学 成瀬記念館
- 54 日本体育大学 図書館
- 55 日本大学 企画広報部広報課（大学史）
- 56 フェリス女学院 歴史資料館
- 57 法政大学 HOSEIミュージアム
- 58 北海道大学 大学文書館
- 59 武蔵野美術大学 法人企画グループ法人企画チーム 大学史史料室
- 60 明海大学 浦安キャンパス メディアセンター（図書館）
- 61 明治学院 歴史資料館
- 62 明治大学 大学史資料センター
- 63 明星学苑 学苑連携推進グループ
- 64 立教学院 立教学院展示館

- 65 立教女学院 資料室
- 66 立教大学 立教学院史資料センター
- 67 立正大学 学長室大学史料編纂課
- 68 早稲田大学 大学史資料センター

以上機関会員68・個人会員34・名誉会員6

## ご案内

全国大学史資料協議会および同協議会東日本部会に関するお問い合わせ、入会申し込みは、下記へご連絡ください。

### 【日本大学企画広報部広報課(大学史)】

〒102-8275

東京都千代田区九段南4-8-24

TEL：03(5275)8444

MAIL：nuhistory@nihon-u.ac.jp

### 【明治大学史資料センター】

〒101-8301

東京都千代田区神田駿河台1-1

TEL：03(3296)4085

MAIL：hismate@meiji.ac.jp

## 会報編集

### 【大東文化大学 大東文化歴史資料館】

〒175-0083

東京都板橋区徳丸2-19-10

大東文化大学徳丸研究棟

TEL：03(5399)7646